

東京大学気候システム研究センター

# CCSR News

1998.3 No.6

## 新田勅教授が逝去

気候システム研究センター教授新田勅先生は、去る 1997 年 12 月 8 日にご逝去されました。享年 54 歳でした。

新田勅先生は、熱帯気象学・気候変動の研究に大きな貢献をあげられ、その分野の世界的な主導者の一人であられました。近年は、当センターの気候解析分野を率いて研究、教育にあたられるとともに、熱帯降雨観測衛星計画 (TRMM) をはじめとした国際研究プロジェクトにも積極的に関わられ、気候システムの研究の発展に貢献されてきました。

先生の葬儀は、12 月 12 日、東京四谷の聖イグナチオ教会で、多数の参列者の下で行なわれました。

先生のご功績とお人柄をしのび、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



## 弔 辞

謹んで、新田さんのご逝去を悼み、御霊前に哀悼の辞を捧げます。

新田さんから、最後に電話があったのは、11月30日、日曜日の夜の事でした。電話の内容は、「むくみもとれ、腎臓の調子も元に戻りつつある。下半身は不都合だが、上半身は健康なので、これからは、頭を使って研究を続けて行こうと考えている」と、明るい調子で話しておられました。また、最後まで、自分の学生の指導のことに気を配っておられました。今までの成果を下に、研究に邁進されることと思っておりましたので、突然の訃報に接し呆然とするばかりでございます。

新田さんは、気候システム研究センターの発足と共に、平成4年の4月から、気候解析分野の教授として参加していただきました。その年の2月に駒場に移り、建物も半分しか出来ていなく、狭い部屋に何人も同居するという苦しいスタートでしたが、誰もが新しい組織で、新たな将来を夢見ていた楽しい時期でした。しかしながら、新しい組織を立ち上げる時とは、同時に、混乱期でもありました。ともすれば、物事が発散して行くことが間々ありました。このような時にも、新田さんは、その誠実な人柄と物事をきちんと着実にやるという資質から、事態をまとめて行くという重要な役割を果たすのが常でした。特に、センターの広報担当として、パンフレットの発行、シンポジウムの運営など、大いに尽力されました。本当に、センターの発展に於いては欠かせない人材でした。とりわけ、病魔に冒されながらも、新しいセンターの業績を載せたパンフレットを作成に邁進されたことは、我々に大いに感銘を与える物でした。また、新田さんというと、優秀なテニスプレーヤーとして有名でした。現在では、工事のため使用不可能ですが、駒場第2キャンパスでのスポーツ大会では、テニスにソフトに大活躍さ

れ、我がセンターの勝利に大いに活躍された姿は、今でも眼に浮かびます。

新田さんの研究面での業績については、良く知られている所です。とりわけ、新田さん達が早くから指摘されていた10年スケールの変動が、やっと、世間の関心を集めるようになった今、新田さんの今後の活躍が待望されていただけに、今回の事態は、まことに遺憾に耐えません。

さらに、ここ数年間は、日米共同プロジェクトの、世界で始めて宇宙からレーダーで雨を測る、TRMMプロジェクトのプロジェクトサイエンティストとして、活躍されておりました。幸いにして、このうち上げは成功裡に終了し、関心のあった降雨レーダーも無事動き、予想されたようなデータを取ることが出来ました。これから、これらのデータを使って新しい研究が出来ると言うときに、この世での研究を中止せざるを得なかった心中を想像すると、残念でたまりません。

しかしながら、新田さんの遺志は、我々、同僚の中に、指導を受けた学生の中に受け継がれています。必ずや、更に、大きな成果となって実現される物と信じます。そして、我が気候システム研究センターも、3年後に迫った時限の時には、新たな構想の下に更なる発展を遂げて行くものと確信しております。

新田さんも天国から是非応援してください。心からご冥福を祈り、お別れの言葉といたします。

東京大学気候システム研究センター長  
住 明正

新田さん。こんなに早くとわの別れになろうとは思ってもよらぬことでした。つい先月、11月14日、気候システム研究センターの一般公開日に新田さんはエルニーニョについて講演されることになっていました。久しぶりに新田さんのお話を聴こうと出かけました。しかし果されませんでした。

私が新田さんと出会ったのは、30年まえの東京大学気象研究室でありました。当時研究室では、柳井先生のご指導のもとに、私と新田さん、林良一さんと一緒に、中部熱帯太平洋上空の風の研究をしていました。柳井先生と私が発見した成層圏の波動が対流圏に源をもち、広い範囲に広がっている、ということを観測データから明らかにしようというわけです。当時のコンピューターは今のパソコンほどの能力もなく、グラフィック機能などありませんから、数字でプリントされた計算結果を手書きでプロットしては図面を作っていました。面白そうな結果が出るとみんなであれこれ議論しあったものです。こうして柳井・丸山・新田・林の連名の論文として世に出たのです。新田さんはこの対流圏の波動や振動の研究をさらに発展させました。今日では、高藪縁さんや若い研究者に引き継がれています。

次に新田さんと出会ったのは、筑波研究学園都市に移転して数年たった気象研究所でありました。私の研究室に新田さんが転勤して来られたのです。新田さんはもう立派な指導的研究者になっておられました。ようやく数年分たまった気象衛星ひまわりの観測データを用いてエルニーニョの年とそうでない年との違いなどを一緒に研究しました。これらの研究成果の一部は長期予報にも役立てられています。筑波での新田さんはテニスをはじめスポーツも大いに楽しみ、健康そのものの生活をされていました。

新田さんとの第三の出会いは、気象集誌の編集委員会でありました。新田さんは、日本の気象学を代表するこの国際論文誌の編集長になられました。新田さんからたのまれ、編集委員をお引き受けしました。気候システム研究センターで2か月に一度開かれる編集会議で、論文が多いときなどともすれば事務的に流れがちなかで、新田さんは学問的議論をリードされ、ときには会議のあとピアパーティーを開いて委員の親睦を深めました。学会の口頭発表の場でも、新田さんは前の方に席をとられ、質問や親切なコメントをされていたのを思い出します。

新田さんは平和や核兵器廃絶の問題にも関心を寄せていました。ともすればタブーになりがちなこのような話題も新田さんとなら遠慮なく議論することができました。そういう意味でも新田さんはよき友人でした。思いかえすと私たちの研究は核実験のときの気象観測データから始まったのでした。

私より若い新田さんがこの世を去ってしまっただけにと残念です。でも、新田さんの志を継ぐもっと若い人たちが育っていますし、また育てていかなければなりません。新田さん、安らかに見守ってください。

東京学芸大学教授 丸山 健人





新田正子様

このたびの勅様の御逝去、まことに哀悼の念にたえません。思えば新田勅さんが私の前に現れたのは今から 30 年以上も前、彼が学部生時代の四年生の時でした。彼は若々しい、そしてとても素直な青年でした。新田さんとはその後、彼の大学院生活のはじめの 3 年間ほど、私が東京大学を去るまで共同で熱帯気象学の研究を致しました。

数年後、今度は新田さんを客員研究員として皆様と一緒に UCLA に来ていただくことが出来ました。この時の彼の研究成果はすばらしいもので、それが日本気象学会賞をもたらしたものでした。

新田さんは自分の研究に打ち込まれるだけでなく、私のプロジェクトの学生達とも親しく接し、彼等を指導して下さいました。新田さんのその後の気象庁や東大での御活躍については私が申し上げるまでもないことです。

新田さんは実に凡帳面な方でした。私が UCLA から出した E - メールにはいつも即座に返事が戻って来ました。それがこの 11 月はじめ、初めて回答が無く、私には何かを知らせているように思えました。そしてそれは不幸なことに当たってしまいました。

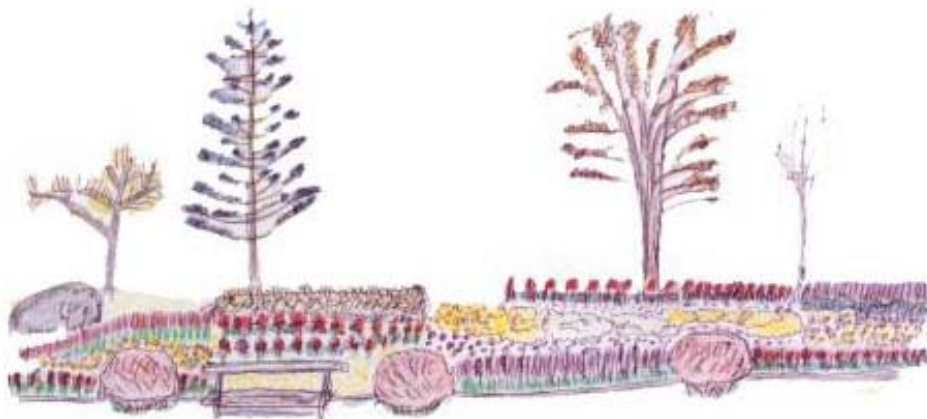
新田さんはなくなるほんの一週間前に私に一通の手紙を下さいました。いつものきちんとした字でしたが、やや小さめに思われました。その手紙には病気の経過や、病棟での生活が書かれており、「天命である」という言葉に死を予期されてる、しかし勇気のある手紙でした。

新田さんはまた心の優しいひとでした。おそらく苦痛をしのびながら書かれたその最後の手紙には、大学院時代のこと、ロサンゼルス思い出などにも触れられ、それはこれから旅立たれる新田さんが、逆に後に残った私達をなくさめ、激励しているかのようなのでした。

奥様とお子様達に：

勅さんを失われ、どんなに心を落とされた事でしょうか。しかし新田さんは実に多くの人達の記憶に生き続けられる方です。彼のおだやかなそして友好的な人となりは、たった一度か二度お会いしただけの私の UCLA の学生達にまで深い印象を与えています。そういう方を夫に、或いは父に持つことの出来た貴方たちはその誇りを持ってこれからの人生をお過ごし下さるようお願いしてこのつたない一文を終わることに致します。

カリフォルニア大学ロサンゼルス校  
大気科学部教授 柳井 迪雄



## Messages from Abroad

懐しい新田様へ

突然、貴方のご不幸のお知らせを受け、心からお悔やみ申し上げます。思いますに元氣な貴方そして科学の道に励んでいる貴方がこんなに早く私達から離れてしまうとは夢にも思わぬ事でした。

1992年～1993年に私達が東大の気候システム研究センターと一緒に研究していた時に、いろいろと指導して下さい、とても感謝しております。又、お宅へも招待して、中興には生まれて初めてのお節をごちそうして下さい、

On behalf of the Climate and Radiation Branch of the Goddard Space Flight Center, I would like to convey my condolences to the family members of Prof. Nitta. Prof. Nitta's passing away is a great loss to the international scientific community. Many of us here at GSFC, who knew Prof. Nitta personally, are deeply saddened by this tragic event.

Throughout his career, Prof. Nitta contributed tirelessly to many significant advances in our understanding of tropical meteorology, climate dynamics and global change. His work in these areas inspired many of his peers and left an indelible mark in the history of human understanding of nature. His work will be remembered and emulated by many generations of new scientists to come.

Prof. Nitta was a true world class scientist, who devoted his career to science even in the last few months prior to his passing away. His selflessness and dedication to science is legendary. I had the opportunity of knowing Prof. Nitta as a very sociable, kind and gentle person. The world has lost one noble scientist and there is not going to be a replacement for someone like him. In our sorrow, we should all take solace and pride in the fact that his legacy in science will continue to live on.

William K.-M. Lau  
Head, Climate and Radiation Branch  
Goddard Space Flight Center

一生の思い出になりました。その他、いろいろな思い出を残して下さいましたが、胸が詰まって何も書けません。こんなに心のよい貴方様、思えば悲しくなります。この上は、どうか安らかに寝り下さい。そして、貴方のご家族の皆様をお守り下さい。心からご冥福をお祈りしてやみません。まずはお弔いまで

隋 中興 (Chung-Hsiung Sui)

許 麗娟 (Lih-Jiuan H. Sui)

(Goddard Space Flight Center, NASA)

The U.S. TRMM Science Team was deeply saddened to learn of the passing of their friend and colleague Dr. Tsuyoshi Nitta, Japan's Project scientist for the TRMM Science Team.

We have worked closely and well with Dr. Nitta on TRMM for more than a decade and many of us knew him as a colleague before that. His research was well known and greatly respected in the United States even before he undertook the leadership position in TRMM Science. Dr. Nitta made a superbly successful effort to develop a science community in Japan which was interested in the measurement of rainfall from space and therefore many scientists with a wide range of interests became TRMM participants.

Dr. Nitta's leadership qualities also contributed greatly to the Japan-U.S. partnership in developing and advancing TRMM toward its successful launch on November 28. We only wish he could have lived to see and work with the TRMM data. He was an outstanding leader who was a pleasure and stimulation to work with and all of the U.S. Science Team will miss him greatly. However, the contributions of great scientists live on and are useful for many decades. TRMM data will live as a memorial to Dr. Nitta's efforts and achievements.

We extend our deepest sympathy to his family.

Joanne Simpson for the U.S. TRMM Science Team  
(Goddard Space Flight Center, NASA)

I am very sad to hear that Prof. Tsuyoshi Nitta passed away. On behalf of National Climate Center of China and myself, I express my deep sadness for his death. Prof. Nitta is a well-known scientist in the climate and monsoon areas. He has contributed much to development of the cooperation between China and Japan in climate and monsoon studies. Through you, please convey my sad feeling to his family.

Ding Yihui  
Professor and Director  
National Climate Center, CMA, Beijing

I am very surprised and very sad to hear that Prof. Nitta deceased in December 8. Prof. Nitta is a famous climatologist in the world, and he also has very large contribution to the Sino-Japan cooperation on the monsoon study. I ever followed him during the period from June, 1995 to June, 1996. I have learned a lot from Prof. Nitta, both in science and in life. I think that my Chinese colleague and I will remember him for ever. No, it won't be the same without Prof. Nitta by any means, but we will go on as best we can and look forward to better cooperation between China scientist and Japan scientist.

Please accept my deepest sympathy and convey my heartfelt condolences to the family of Prof. Nitta.

Zeng-Zhen HU  
LASG, Institute of Atmospheric Physics,  
Chinese Academy of Sciences

I was greatly shocked at learning the sudden death of Professor Nitta on Dec. 8.

Professor Nitta had been a world-wide famous meteorologist and he has been a good friend of mine for 20 years. He had made outstanding contributions to the research of Tropical Meteorology, Monsoon Meteorology and Climate variabilities. Meanwhile, he devoted much of his efforts to the collaborative studies on East Asian Monsoon between China and Japan. There is no words to express my deepest grief and sadness at this sad news. Professor Nitta's passing away is a enormalous loss not only to the whole meteorological field, but also to the bilateral research between China and Japan. To me, I lost a sincere and respectable friend!

Huang Ronghui  
Prof. Vice-Director of IAP / CAS

I was really shocked and sorrowful to get the news of Prof. Nitta's death. He was very kind to me and helped me a great deal when I was at CCSR.

ZHANG, Renhe  
Institute of Atmospheric Physics  
Chinese Academy of Sciences

I always remember you with admiration and fondness as an outstanding researcher and a caring friend.

Yoshikazu Hayashi  
(Geophysical Fluid Dynamics Laboratory)

I feel very sad after reading your e-mail. Not only an outstanding scientist, Professor Nitta is also a friend to many meteorologists all over the world. His passed away is a great loss to CCSR and entire meteoro-

logical research community. Please pass my deep sympathy to his family.

Bin Wang  
Professor, Dept. of Meteorology  
University of Hawaii

I am sincerely sorry to hear the very sad news of Prof. Nitta passing away. Although I never had a chance to discuss research with him in detail, he was always nice and gave me encouragements whenever I saw him. I will miss him greatly.

Kayo Ide  
(University of California, Los Angeles)

I feel very sad about the death of Prof. Nitta. In my memory, I only met him twice (once at UCLA and once at Miami 1987). I was hoping that I would be able to learn more from him after doing proper study about Asian climate and climate prediction. I'm sorry that I will not have the chance any more.

Mong-Ming Lu  
Central Weather Bureau, Taiwan

I feel sad knowing that Prof. Nitta passed away. It is very difficult to express anything at this moment, but I hope you and all of his friends and colleagues be able to accept it.

Victor Magana Rueda  
(UNAM, Mexico)

Sorry to hear the news. I respect Prof. Nitta for what he has done in atmospheric sciences. I met him only once Miami. He

is a very nice person to talk to.

Xiaoqing Wu  
CSG/MMM National Center for Atmospheric Research

This is very tragic news. It is a great loss to our field.

Richard Johnson  
(Colorado State University)

That is very sad news. Tsuyoshi was special in many ways.

Steve Esbensen  
(Oregon State University)

We are indeed most saddened to note that Dr. Tsuyoshi Nitta passed away. His many followers at FSU all wish to convey our deepest sympathies to his family and to his friends in Japan. We knew him from the days of MONEX when he came to participate as a field phase scientist. We followed his work on convection and improvements of the cumulus modeling ideas he showed so effectively using atmospheric data sets. His most recent paper in the Chinese Journal Advances in Atmospheric Sciences Nov. 1997 shows the excellent Contributions he has been making. We will miss him.

T.N. Krishnamurti  
Professor  
Department of Meteorology  
Florida State University

## 新田先生の思い出

新田勅先生のご逝去を心よりお悼みします。初めてお会いしてから15年、常に励まして下さった先生がもういらっしやらないことは、今でも時々自分に言い聞かせないと信じられない気持です。テニスがお好きでいつもはつらつとし、仕事をてきばきと片付けられた先生でした。なかなか物事の進まない私など、さぞ歯がゆく思われたことでしょう。それでも、いつも辛抱強く見守り、押しつけがましくない的確な助言を下さいました。昨年秋、気象学会の「熱帯」のセッションに新田先生がみえなかった時、いつものリーダーを欠く大きな寂しさを感じました。早く元気になって戻っていただきたいと願いましたが、今思えば、既に大変つらいご体調でいらしたのでしょう。そんな時でも、「ちょっと大事をとって」と、決して弱音を漏らさない先生でした。11月には先生が情熱を注いでいらしたTRMM(熱帯降雨観測衛星)が上がり、私も良い仕事をして少しはご恩返しをしたいと思っていた矢先の訃報でした。ついに言えずにしまいました。これまで本当に有難うございました。これから、先生のご遺志のほんの一部なりとも担う仕事をしたいと思えます。どうぞ空の上から見守って下さい。ご冥福をお祈り申し上げます。

国立環境研究所 高藪 縁

私が新田先生の研究室に入った最初の一年は、学生が少なかったこともあって、贅沢にも殆ど一対一の状態で教えていただきました。入学してすぐの4月に、そろそろワークステーションの扱いに慣れたでしょうと、研究テーマをいただきました。実際は慣れたどころか始終トラブルを起こしていたのですが、実際に観測データを使って解析を行ったことのない私はどんなことでも面白くて、新しい絵を出す度にいちいち先生のところに駆け込んでいました。先生はこれらの解析が研究のどのような位置にあるのかを私にもわか

るように常に説明して下さいだったので、次のステップに上がるのが待ち遠しいほどでした。先生に教えていただいたことは数え上げればきりがありませんけれども、一番最初の時期に研究をする愉しみを味わわせていただいたことが、その後も私が研究を持続する糧となっているのだと思います。

可知美佐子(宇宙開発事業団 EORC)

新田さんとはじめてお話したのは、ずうっとむかし、自分がまだ大学院生のころ、どこかの夏の学校のときのような気がします。そのとき、すでに東大の助手を勤めておられ、ゆったりした感じの人だなあという印象でした。

その後、分野が少し異なることで、ご無沙汰していたのですが、新田さんが東大気候センターの教授としてお見えになり、親しくしていただきました。

新田さんの人となりは、それぞれいろいろな方が書かれると思いますが、やはり性格の温厚さと粘り強さだったのではないのでしょうか? 様々のことにたいして、非常に丁寧に問題点を説明され、2年間ほど編集委員の仕事と一緒にさせていただいた時など、それを強く感じました。

最後にお話したのは、通勤の途中でした。すでに杖をついておられ、そのとき、'どうも腰の方に転移したみたいだ'という事を平然として語られたとき、僕の方は何も言えなく呆然としていましたが、その精神の強さを感じました。

それから、しばらくして訃報に接しましたが、まだこれから色々やりたい辛があって、無念だったのではないかと思います。

安らかにお眠り下さい。

高橋 正明(CCSR 大気モデリング  
分野・助教授)



新田先生と初めて面識を得たのは、もう 15 年くらいも前、私が気象庁予報課の駆け出しで、東大の気象研究室と数値予報課の合同コロキウムの隅っこに座っていた頃だったと思います。新田さんはすでに「熱帯の気象（東京堂出版）」も書かれており、現場で天気図描きに追われ、消しゴムのカスにまみれて毎日を過ごす私にとっては、雲上人でした。まだ半ドンだったある土曜日の午後、北千住駅のホームでぼんやりと電車を待っていた私は、まさか向こうは覚えていまい、と思っていた新田先生に、にっこりと微笑みながら会釈してもらったのをいまでもよく覚えています。その後、新田先生は気象庁に來られ、部署は違いましたが、ご - 結する機会も多くなりました。直接仕事の上で指導を受けたわけではないのですが、（今と違って！？）なまいきざかりであった私の発言や研究を、暖かく受け入れてもらっていたような気がします。

というわけで、94 年に私が先生の下の助教授として気候センターに來たときも、まったく違和感はありませんでした。テニスを一緒にやれる（教えてもらう、といった方が正しい）ことになって嬉しかったせいもあるのですが……。仕事では、私はモデル偏重、先生はデータ解析一本だったのですが、先生の発見された十年規模変動については、「データが足りないからモデルがメカニズム解明の鍵になる」と常々言われ、初めて共同研究らしきものができるかなと思った矢先のご逝去でした。

ハワイでテニスしたときは楽しかったですね。その直後に体調を崩されたのですが、最期まで登校されて毅然とした態度で自分の仕事をこなされる姿には、われわれ皆心を打たれました。

多年にわたる御指導どうもありがとうございました。安らかに眠りください。

CCSR 気候解析分野・助教授 木本 昌秀

新田先生にはほぼ 4 年間、ご指導いただきました。とても几帳面でいつも計画的に物事を進めていたのが印象に残っています。修士のころディスカッションをするときはいつもアポをとってから行い、そのときには先生は準備万端で、これまでに行った研究や今後の研究予定などをまとめたものを用意されていました。また、修論についても新田研だけは提出期限の 2 週間前に新田研へ切というのがありました。そのおかげで新田先生の学生は毎年余裕をもって論文を出していました。現在は新田先生が長年に渡って研究されてきた分野、熱帯気象の中の対流活動に関する研究を続けています。これからも新田先生が築かれた道、及びその想いを少しでも引き継いでゆきたいと考えています。

久保田尚之（CCSR）

私は、新田先生の学生として気候センターにきてから 3 年近くになります。その間、新田先生にとり決してよい学生とは言えなかったであろう私を、先生は本当に丁寧に面倒みて下さいました。普段、大声を挙げることもなく怒った顔も見たことはありませんでしたが、私の作業が不満足であった時は厳しい顔での確な示唆を与えて下さいました。

亡くなる一月半ほど前に研究室で私を激励して下さいました時の、少し淋しそうで透明な先生の表情が、最も強く脳裏に残っています。新田先生がお元気のうちに、「私は新田先生のもとで育った研究者です」と名乗れるようになれていなかったことが非常に残念ですが、教えていただいたことを忘れずに、これから研究を発展させることが先生の労に応えることだと思えます。新田先生の御冥福を心よりお祈りします。

博士課程 1 年 渡部 雅浩（CCSR）

## 新田勅教授の業績

新田先生は 1943 年、岡山に生まれ育ち、1966 年に東京大学理学部地球物理学科を卒業されました。大学院に進学してからは、柳井迪雄教授のもとで熱帯気象の研究を開始され、熱帯波動擾乱の研究、とりわけ波動の力学とエネルギー変換機構に関する研究で大きな貢献をされました。1970 年には東京学芸大学の助手となられ、1972 年に学位を取得された後、助手として母校東京大学に戻られました。

新田先生は 1972 年から 1974 年、および 1976 年から 1977 年の 2 回にわたって、客員研究員としてカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) に滞在され、柳井教授の研究プロジェクトに参加されました。UCLA では、当時大学院生であった Steve Esbensen と、BOMEX (Barbados Oceanographic and Meteorological Experiment) のデータを用いた有名な論文を善かれました。その後、GATE (GARP Atlantic Tropical Experiment) のデータを用いた最初の論文を書かれ、また、積雲の上昇流のスペクトル表現とバルク方式の下降流とを考慮した積雲質量フラックスの診断的算定の研究を行ないました。その後日本に戻ってからは、AMTEX (Air-Mass Transformation Experiment) のデータ解析にも従事され、また 1979 年の MONEX (Monsoon Experiment) のフィールド観測にも参加されました。また、高層気象観測データを用いてチベット高原の熱と水の収支をはじめて明らかにしたのも先生の仕事です。これらの業績に対して、1980 年の気象学会賞が与えられています。

1984 年には気象研究所に移られ、さらに 1988 年に気象庁長期予報課に移られてからは、大気の大規模なテレコネクションや長期気候変動にも研究分野を広げられました。先生は、フィリピン東方の熱帯西太平洋の対流活動と亜熱帯高気圧の変動の顕著な相関を見つけれ

れ、それを PJ (Pacific-Japan) パターンと名付けました。この変動パターンは、日本の夏の天候の長期予報の指針となるものでした。また、1989 年の山田真悟さんとの論文は、最近活発に議論されている十年周期変動の研究のさきがけとなりました。1990 年には気象大学校教授となり、1992 年には設立されたばかりの東京大学気候システム研究センター (CCSR) に教授として移られました。CCSR では、十年周期変動や熱帯雲システムに関する研究をより一層進められました。

長い間、先生は日本の気象研究の分野で重要な人物でした。先生はアジアモンスーンに関する日本と中国の間の研究協力の確立に努力され、また、日米合同の TRMM (Tropical Rainfall Measuring Mission) プロジェクトのサイエンスリーダーとして活躍されました。さらに、1992 年から 1996 年まで、気象集誌の編集長を務められました。

新田先生は、40 編を超える英文の論文を書かれ、また「熱帯の気象」(1982, 東京堂出版)をはじめとする著書・解説を出版されています。

卓越した科学者であり教師であるとともに、先生は才能のあるテニスプレーヤーでした。先生はあるとき、少し照れながらも、文京区のテニス大会のシングルスで二度優勝されたことを話されたことがあります。1971 年に結婚された正子夫人との間には、二人のお子さんがいらっしやいます。先生の穏やかでまっすぐな性格は誰からも好かれるものでした。(木本昌秀、高薮縁、柳井迪雄；原文英文)

## 新田勅教授著述業績リスト

1. Yanai, M., and T. Nitta, 1967: Computation of vertical motion and vorticity budget in a Caribbean easterly wave. *J. Meteor. Soc. Japan*, 45, 444-466.
2. Yanai, M., T. Maruyama, T. Nitta, and Y. Hayashi, 1968: Power spectra of large scale disturbances over the tropical Pacific. *J. Meteor. Soc. Japan*, 46, 308-323.
3. Yanai, M., and T. Nitta, 1968: Finite difference approximations for the barotropic instability problem. *J. Meteor. Soc. Japan*, 46, 389-403.
4. Nitta, T. and M. Yanai, 1969: A note on the barotropic instability of the tropical easterly current. *J. Meteor. Soc. Japan*, 47, 127-130.
5. Nitta, T., 1970: Statistical study of tropospheric wave disturbances in the tropical Pacific region. *J. Meteor. Soc. Japan*, 48, 47-60.
6. Nitta, T., 1970: On the role of transient eddies in the tropical troposphere. *J. Meteor. Soc. Japan*, 48, 348-359.
7. Nitta, T., 1970: A study of generation and conversion of eddy available potential energy in the tropics, *J. Meteor. Soc. Japan*, 48, 524-528.
8. Nitta, T., 1972: Energy budget of wave disturbances over the Marshall islands during the years of 1956 and 1958. *J. Meteor. Soc. Japan*, 50, 71-84.
9. Nitta, T., 1972: Structure of wave disturbances over the Marshall islands during the years of 1956 and 1958. *J. Meteor. Soc. Japan*, 50, 85-103.
10. Nitta, T., M. Nanbu and M. Yoshizaki, 1973: Wave disturbances over the China continent and the eastern China Sea in February 1968. *J. Meteor. Soc. Japan*, 51, 11-28.
11. Nitta, T., and S. Esbensen, 1974: Heat and moisture budget analyses using BOMEX data. *Mon. Wea. Rev.*, 102, 17-28.
12. Nitta, T., and S. Esbensen, 1974: Diurnal variations in the western Atlantic Trades during the BOMEX. *J. Meteor. Soc. Japan*, 52, 254-257.
13. Nitta, T., 1975: Observational determination of cloud mass flux distributions. *J. Atmos. Sci.*, 32, 73-91.
14. Nitta, T., 1976: Large-scale heat and moisture budgets during the air mass transformation experiment. *J. Meteor. Soc. Japan*, 54, 1-14.
15. Yanai, M. J. -H. Chu, T. E. Stark and T. Nitta, 1976: Response of deep and shallow tropical maritime cumuli to large-scale processes. *J. Atmos. Sci.*, 33, 976-991.
16. Nitta, T., 1977: Response of cumulus updraft and downdraft to GATE A/B-scale motion system. *J. Atmos. Sci.*, 34, 1163-1186.
17. Nitta, T., 1978: A diagnostic study of interaction of cumulus updrafts and downdrafts with large-scale motions in GATE. *J. Meteor. Soc. Japan*, 56, 232-242.
18. Nitta, T., 1979: On the comparison of computed cloud mass fluxes with observations over the GATE area. *J. Meteor. Soc. Japan*, 57, 474-478.
19. Nitta, T., and S. S. So, 1980: Structure and heat, moisture and momentum budgets of a convective mixed layer during AMTEX'75. *J. Meteor. Soc. Japan*, 58, 378-393.
20. Nitta, T., and K. Masuda, 1981: Observational study of a monsoon depression developed over the bay of Bengal during summer MONEX. *J. Meteor. Soc. Japan*, 59, 672-682.
21. Nitta, T., 1983: Observational study of

heat sources over the eastern Tibetan Plateau during the summer monsoon. *J. Meteor. Soc. Japan.*, 61, 590-605.

22. Nitta, T., Y. Nakagomi, Y. Suzuki, N. Hasegawa and A. Kadokura, 1985: Global analysis of the lower tropospheric disturbances in the tropics during the northern summer of the FGGE year. Part I: Global features of the disturbances. *J. Meteor. Soc. Japan*, 63, 1-19.

23. Nitta, T., and Y. Takayabu, 1985: Global analysis of the lower tropospheric disturbances in the tropics during the northern summer of the PGGE year. Part I: Regional characteristics of the disturbances. *Pure Appl. Geophys.*, 123, 272-292.

24. Nitta, T., 1985: Upper tropospheric wave disturbances observed in the Arabian Sea during the summer MONEX. *J. Meteor. Soc. Japan*, 63, 605-617.

25. Maruyama, T., T. Nitta and Y. Tsunooka 1986: Estimation of monthly rainfall from satellite-observed cloud amount in the tropical western Pacific. *J. Meteor. Soc. Japan*, 64, 147-153.

26. Nitta, T., 1986: Long-term variations of cloud amount in the western Pacific region. *J. Meteor. Soc. Japan*, 64, 373-390.

27. Nitta, T., T. Maruyama and T. Motoki, 1986: Long-term variations of tropospheric circulations in the western Pacific region as derived from GMS cloud winds. *J. Meteor. Soc. Japan*, 64, 895-911.

28. Nitta, T., 1987: Convective activities in the tropical western Pacific and their impact on the Northern Hemisphere summer circulation. *J. Meteor. Soc. Japan*, 65, 373-390.

29. Nitta, T., and T. Motoki, 1987: Abrupt enhancement of convective activity and low

-level westerly burst during the onset phase of the 1988-87 EL Nino. *J. Meteor. Soc. Japan*, 65, 497-506.

30. Nitta, T., 1989: Global features of the Pacific-Japan oscillation. *Meteor. Atmos. Phys.*, 41, 5-12.

31. Nitta, T., and S. Yamada, 1989: Recent warming of tropical sea surface temperature and its relationship with Northern Hemisphere circulation. *J. Meteor. Soc. Japan*, 67, 375-383.

32. Nitta, T., 1989: Development of a twin cyclone and westerly bursts during the initial phase of the 1986-87 El Nino. *J. Meteor. Soc. Japan*, 67, 677-681.

33. Nitta, T., 1990: Unusual summer weather over Japan in 1988 and its relationship to the tropics. *J. Meteor. Soc. Japan*, 68, 575-588.

34. Nitta, T., T. Mizuno and K. Takahashi, 1992: Multi-scale convective systems during the initial phase of the 1986/87 El Nino. *J. Meteor. Soc. Japan*, 70, 447-466.

35. Takayabu, Y. N., and T. Nitta: 1993: 3-5 day-period disturbances coupled with convection over the tropical Pacific Ocean. *J. Meteor. Soc. Japan*, 71, 221-246.

36. Nitta, T., and J. Yoshimura, 1993: Trends and Interannual and interdecadal variations of global land surface air temperature. *J. Meteor. Soc. Japan*, 71, 367-375.

37. Nitta, T., and S. Sekine, 1994: Diurnal variation of convective activity over the tropical western Pacific. *J. Meteor. Soc. Japan*, 72, 627-641.

38. Nitta, T., and M. Kachi, 1994: Interdecadal variations of precipitation over the tropical Pacific and Indian Oceans. *J. Meteor. Soc. Japan*, 72, 823-831.

39. Nitta, T., 1996: Decadal variations in atmosphere and ocean. *Umi to Sora*, 71,

81-87 (in Japanese).

40. Nitta, T., and Z.-Z. Hu, 1996: Summer climate variability in China and its association with 500 hPa height and tropical convection. *J. Meteor. Soc. Japan*, 74, 425-445.
41. Hu, Z. -Z., and T. Nitta, 1996: Wavelet analysis of summer rainfall over North China and India and SOI using 1891-1992 data. *J. Meteor. Soc. Japan*, 74, 833-844.
42. Kachi, M., and T. Nitta, 1997: Decadal variations of the global atmosphere-ocean system. *J. Meteor. Soc. Japan*, 75, 657-675.

## 著書・報告・レビュー

1. 山岬正紀, 丸山健人, 新田 勲, 1976: 熱帯気象. 気象研究ノート, 128, 60-75.
2. 新田 勲, 1978: 熱帯大西洋特別観測 (GATE) に関する研究の現状. 天気, 25, 159-174.
3. 山岬正紀, 新田 勲, 1978: 熱帯気象学. 1978: 天気, 25, 595-603.
4. 新田 勲, 松野太郎, 1978: 大規模場と積雲対流との相互作用に関する解析的研究, 文部省科学研究費自然災害特別研究研究成果報告集, 7-20.
5. 新田 勲, 1980: 積雪対流と大規模運動の相互作用に関する解析的研究 - 学会賞受賞記念講演 -. 天気, 27, 697-707.
6. 新田 勲, 1980: 夏季モンスーン実験計画観測センターでの活動. 天気, 27, 45-50.
7. 新田 勲, 1980: GARP 大西洋熱帯実験. 海洋科学, 12, 453-459.
8. 新田 勲, 1982: 熱帯の気象. 東京堂出版, 219pp.
9. 新田 勲, 1983: ベールを脱いだ熱帯の天気. 科学朝日, 43, 90-94.
10. Nitta, T., 1985: International variations of cloud amount in the western Pacific region. Proceedings of international conference on Monsoon in the Far East. 235-241.
11. Nitta, T., 1986: Long term variations of cloud amount and large-scale circulations over the western Pacific region. Meteor. Res. Reprint, University of Tokyo, 1, 55-62.
12. 新田 勲, 1986: 熱帯西部太平洋の熱源変動と中・高緯度大気への影響. グロースベッター, 25, 1-21.
13. 新田 勲, 丸山健人, 常岡好枝, 元木敏博, 1986: 熱帯西部太平洋の熱源変動と中高緯度大気への影響. 気象研究所昭和 61 年度研究発表会会報誌, 55-65.
14. Nitta, T., 1987: Convective activities in the tropical western Pacific and their impact on the Northern Hemisphere summer circulation. Proceedings of international conference on the general circulation of east Asia, 121-126.
15. 新田 勲, 1987: エルニーニョと異常気象, 新しい気象学 - 雲と大気の状態 -. 第 21 回夏季大会テキスト, 42-46.
16. 新田 勲, 1988: 1986-87 エルニーニョ発生期の大気・海洋変動. グロースベッター, 25, 86-93.
17. 中村健治, 新田 勲, 1988: 熱帯降雨観測国際シンポジウム. 天気, 35, 233-235.
18. Nitta, T., 1988: Long-term variation of convective activities in the tropical western Pacific and their effects on the global atmospheric circulations. Tropical Rainfall Measurements, 87-92.
19. 新田 勲, 中沢哲夫, 1988: エルニーニョ発生期の大気・海洋変動. 海洋科学, 20, 289-293.
20. 新田 勲, 安成哲三郎他 7 名, 1989: 大気 - 海洋相互作用に関するピアクネスシンポジウム. 天気, 35, 417-425.
21. 新田 勲, 1989: 異常気象レポート '89, PART I: 日本の異常気象はなぜおこる?

ニュートン, 9, 38-45.

22. 新田 勲, 1989: 1986-88 エルニーニョの実況. 海洋, 21, 450-452.

23. 新田 勲, 木村吉宏, 藤村弘志, 上野達雄, 1990: 数年~数十年規模の大気・海洋変動. 海洋, 号外, 35-37.

24. 中村健治, 新田 勲, 松野太郎, J. Simpson, 1990: TRMM 計画の意義. 通信総合研究所報, 36, 57-70.

25. 新田 勲: 熱帯の海と世界の気象, 新しい気学-海と大気-. 第24回夏季大学テキスト, 32-41.

26. Nitta, T., 1990: Overview of the long-range weather regime 1986-1989(Northern Hemisphere). Long-Range Forecasting Research Report, No. 13. WMO, 141-145.

27. 新田 勲, 露木 義, 1991: 大気の大規模変動とその予測, 1. 長周期変動の実態と力学, 天気, 38, 399-404.

28. 栗原弘一, 新田 勲, 杉 正人, 1991: 「WMO 月・季節変動の診断と予測に関する研修ワークショップ」の報告, 天気, 38, 427-432.

29. 新田 勲, 山田真吾, 上野達雄, 1991: 熱帯の海面水温・対流活動と日本の天気-冬期-. 数値予測モデルによる15日予報結果の利用: 統計モデルの開発: -平成元年度全国長期予報技術検討会報告-, 研究時報, 42, 235-254.

30. 新田 勲, 露木 義, 1991: 大気の大規模変動とその予測. 長期予報, 天気, 38, 453-455.

31. 新田 勲, 1992: 熱帯の気象と日本の天気, 天気, 39, 769-773.

32. 新田 勲, 吉村 純, 1992: 全球地上気温の大規模変動, 月刊 海洋, 号外, No.5, 152-155.

33. 新田 勲, 1993: TRMM (熱帯降雨観測衛星)計画について, 天気, 40, 34-37.

34. 新田 勲, 1993: 温暖化の事実, 第27回夏季大学: 新しい気象学, 37-48, 日本気象学会.

35. 新田 勲, 1994: 1970年代~1980年代にかけての大気・海洋変動, グロースベッター, 32, 1-9.

36. 山中大学, 村上雅人, 荻野和彦, 新田 勲, 小川忠彦, 1994: 「インドネシア地域における赤道大気観測に関する第4回国際シンポジウム」の報告, 天気, 41, 47-53.

37. 新田 勲, 富田智彦, 鬼頭昭雄, 山崎信雄, 1994: MI/M2: Atmosphere/ocean interaction-monsoon and tropical monsoon, 天気, 40, 983-986.

38. 新田 勲, 1995: 気象システムの謎をさぐる, ingelheimer, 32, 30-35.

39. 新田 勲, 1995: 最近の気象変動の実態, Transport, 45, 30-31.

40. 新田 勲, 1995: 最近の日本の天候の特徴とその要因, 異常気象と日本: そのメカニズムを考える, 第2回日本気象学会中部支部公開気象講座, 60-65, 日本気象学会中部支部.

41. 新田 勲, 古津年章, 中村健治, 中津哲夫, 小池俊雄, 1995: 日米合同 TRMM (熱帯降雨観測所衛星計画)サイエンスチーム会議出席報告, 天気, 42, 159-162.

42. 安成哲三, 新田 勲, 隅 健一, 杉 正人, 篠田雅人, 1995: モンスーン変動と予測に関する国際会議出席報告, 天気, 42, 301-306.

43. 渡部雅浩, 新田 勲, 1997: 冬季北半球における近年の気候変化と10年規模変動, 天気, 44, 207-212.





## 新田先生からのメッセージ

十一月三日  
 今を生きる、一日一生の気持  
 無理ほーけい、自宅中心の生活にする  
 調子かよければ天をへ、できる範囲で  
 TRM、講演会ほつきり断わらう、家族に感謝  
 音楽、絵とかくこと、本を読むこと  
 事、家族と談笑、せいっぱい音楽に過ぎやう  
 今日ほつわがまの学生、うまく画けた、  
 緩和で多ーに入院、母に似やう、  
 時々論文を読やう、渡部論文、和田論文、  
 足かだんだんさかりくはつてきこい、  
 理事金の仕事ほできまうてやらう(多分入院まうと)

11月28日

柳井迪雄様

先日はロサンゼルスからわざわざお電話くださりありがとうございました。11月7日から、柏市にある国立がんセンター東病院（5年前に設立）に入居しています。昨年3月に手術したじん臓がんの影響が全身に転移しており、主治医からは残りは月単位で考えてくれと言われていています。現在積極的な治療は行なっておらず、痛み等を取り除く治療を中心にやっています。

日本にも最近ホスピスと同様な施設ができてはじめており、こちらにも緩和（かんわ）ケア病棟というのがあり、そこに入っています。個室で居住環境はばつぐんの所で、ナース、医師のサポートも非常によく、家族と談笑しながら音楽を聞いたり、絵をかいたり結構

楽しく過ごしています。

私自身の今回の病気は天命だと思えますし、これまで仕事、その他と精いっぱいやってきたので悔いはありません。

柳井さんには大学院生時代の指導から、UCLA 滞在などで大変お世話になりました。特に2回にわたってUCLAに呼んで下さり、私の人生にとってハイライトな部分になっています。家族ともども大いにロサンゼルスを楽しみことができました。またそのときの仕事で、「日本気象学会賞」も受賞することができました。ほんとうにありがとうございました。

奥様にもよろしくお伝え下さい。

新田 勅

本日は新田勅のためにわざわざお集まり下さり大変ありがとうございます。昨年の春じん臓にがんがあることが判明し、虎ノ門病院にて15時間におよぶ大手術を行いました。手術は大成功で1ヶ月足らずで退院でき、その後半年間は通院しながら治療を続け、以前の7~8割の状況に復帰できるようになり、再びテニスにも夢中になれるようになりました。

しかし病まは全身に転移しており、再びせきが続くようになり、今年の春からは腰のいたみを感じるようになりました。丁度その頃、私の住んでいる柏市に国立がんセンター東病院があることを知り、その緩和ケア病棟に登録を行いました。約2週間に1度の通院を続けながら東大にも通っていましたが、11月はじめ身体の急速なむくみと下半身のマヒのため、急拠入院することになりました。

国立がんセンター東病院緩和ケア病棟では、すぐれた居住環境の下、看護婦さんの献身的なお世話、医師の方々の適切な処置によって、家族の愛情に見守られながら楽しく過ごすことができました。

今回の私の病気は天命だと思えますし、これまで仕事や日常生活で精一杯やってきたので、悔いはありません。

これまで皆様からいただいた公私にわたる恩ちょうを心深くしまって、未知の彼方へ旅立つ所存です。どうもありがとうございました。

新田 勅

(葬儀において、ご本人によるメッセージが、ご遺族により代読されました。)

## ■お知らせ

### 新田勅教授追悼シンポジウム

新田勅教授追悼 CCSR シンポジウムを以下のように行ないます。

お問い合わせは気候システム研究センターまで。  
第3回 CCSR シンポジウム新田勅教授追悼

「気候システム変動の謎に挑む」

1998年4月27日(月)~4月28日(火)

東京大学山上会館

＊

### 新田勅教授追悼文集

新田勅先生をしのぶ追悼文集を現在準備中です。先生にまつわる思い出などをお寄せください。

宛先：気候システム研究センター・小島香寿美

1998年3月20日  
東京大学気候システム研究センター  
〒153-0041 東京都目黒区駒場4-6-1  
電話 03-5453-3950 FAX 03-5453-3964

印刷 社会福祉法人・東京コロニー 東京都大田福祉工場  
電話 03-3762-7611

